

キルギス共和国，テルスケイアラトー山脈における氷河堆積物の OSL 年代 OSL dating of glacier deposits in the in the Terskey-Alatoo Range, Kyrgyz Republic

奈良間 千之[1]; 塚本 すみ子[2]

Chiyuki Narama[1]; Sumiko Tsukamoto[2]

[1] 名古屋大・環境学; [2] 都立大・理・地理

[1] Environmental Studies, Nagoya Univ.; [2] Dept. of Geogrphy, Tokyo Metropolitan Univ.

キルギス共和国北西部のテルスケイアラトー山脈において，モレーン，下流の水流堆積物に OSL 年代測定を適用した．調査した 5 つの地域（Turasu, Alabash, Dengtala, Keksay, Temilkanat）でのシュミットハンマーによる相対年代法での結果は，下流部のモレーンが最終氷期に形成された可能性を示す．5 つの谷に分布する古いモレーンの絶対年代を決定するため，2003 年と 2004 年の夏に現地で OSL 年代測定用のサンプルを採取した．これらサンプルが採取された場所は，最低位の高度 2250～2100 m に位置する形成年代の一番古いステージ（Turasu, Alabash, Dengtala, Keksay, Temil）のモレーンと高度 2700～2400 m に位置する二番目に古いステージ（Bulak, Sary, Komsomol, Toguz, Boloshil）のモレーンである．

2003 年に採取したサンプルについて，まず粗粒子法による石英の OSL 年代測定を試みたが，石英の信号強度が弱く，数回の HF による石英の純化をおこなった後でも長石からの OSL を完全に除去することができなかった．そこで，微粒子法による石英の測定をおこなった結果，粗粒子よりも明るいルミネッセンスを測定した．次に微粒子法の石英が堆積前に完全にブリーチしていたかどうかを確かめるため，粗粒子法による長石の測定をおこなった．この両者からは，ほぼ同じ年代が得られ，二番目に古いステージのモレーンの年代は，～20-16 ka と推定された．学会では，2004 年に採取したサンプルの測定結果をまじえて報告する予定である．